

状況により、施設が休館したり、事業などが変更・延期、または中止になる場合があります。最新情報は市公式サイト・各施設のウェブサイトなどで確認してください。

コロナ禍でも 市民生活を守り 市の着実な発展を目指す 予算を編成

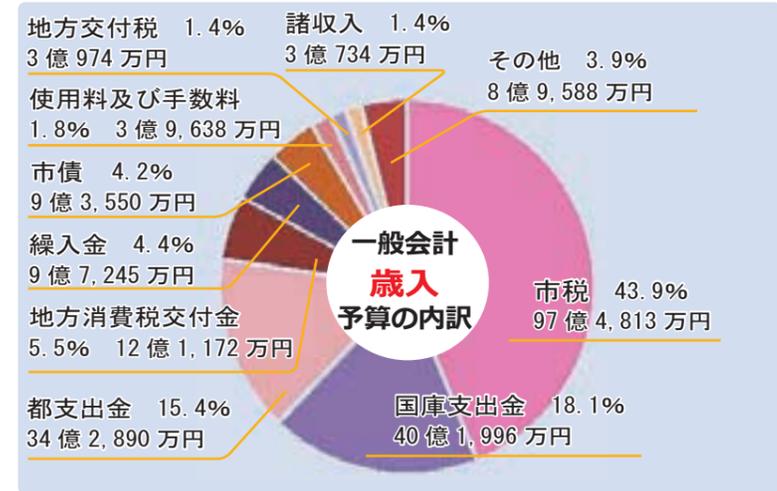
問合せ 財政課☎319

【表1】令和3年度予算～各会計の内訳と前年度との比較～
(単位：万円、%)

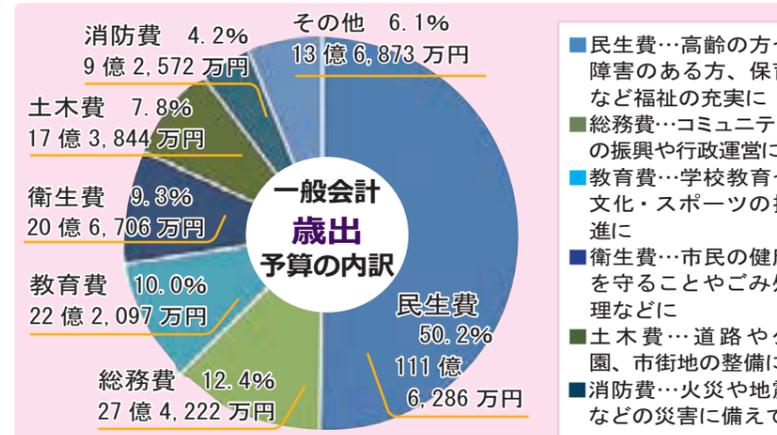
区分	令和3年度(当初)	令和2年度(当初)	増減額	増減率	
一般会計	2,222,600	2,200,600	22,000	1.0	
特別会計	国民健康保険事業	590,330	592,310	▲1,980	▲0.3
	後期高齢者医療	132,240	128,380	3,860	3.0
	介護保険事業	386,420	382,548	3,872	1.0
	羽村駅西口土地 区画整理事業	156,400	185,050	▲28,650	▲15.5
特別会計合計	1,265,390	1,288,288	▲22,898	▲1.8	
水道事業会計	179,093	165,597	13,495	8.1	
下水道事業会計	172,393	182,007	▲9,614	▲5.3	
合計	3,839,475	3,836,493	2,983	0.1	

※水道事業会計および下水道事業会計は、「収益的支出」と「資本的支出」を合計し、予算額としています。
※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

【グラフ2】一般会計歳入予算の内訳



【グラフ3】一般会計歳出予算の内訳



■民生費…高齢の方や障害のある方、保育など福祉の充実に
■総務費…コミュニティの振興や行政運営に
■教育費…学校教育や文化・スポーツの推進に
■衛生費…市民の健康を守ることやごみ処理などに
■土木費…道路や公園、市街地の整備に
■消防費…火災や地震などの災害に備えて

一般会計予算

◆歳入内訳◆

歳入の根幹である市税収入は、前年度と比較し3.4%減の97億4813万円を見込みました。【グラフ1・2】
市民税個人分は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などによる所得の減と、社会保険料控除やふるさと納税などの税額控除の伸びに伴う減

収を見込み、前年度と比較して5.3%減の33億7759万円としました。
市民税法人分は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う景気の後退により、市内企業の業績が大きく影響を受けている状況や、税制改正(法人税割の一部国税化)の影響を踏まえ、前年度と比較して30.9%減の2億9016万円としました。
固定資産税は、新増築家屋分の増を見込む一方で、3年に一度の評

価替えによる減などを見込み、全体では前年度と比較して0.2%減の47億6980万円としました。
軽自動車税は、登録台数の増加や新税率・重課税の適用による増などを見込み、前年度と比較して3.6%増の1億592万円としました。
◆歳出内訳◆
民生費は、生活保護費、障害福祉サービス費、私立保育園保育委託料などを計上しました。

教育費は、スイミングセンター指定管理委託料などを計上しました。
総務費は、旧自然休暇村解体工事費、五ノ神会館空調設備等改修工事費などを計上、土木費は、街路照明施設改修工事費や市道補修等工事費などを計上しました。【グラフ3・4】

◆行政のスリム化に向けた全事務事業の点検・見直し(効果額3,221万円)

事務事業名	見直し内容
難病患者福祉手当の支給	ほかの制度と重複する対象者などについて制限を導入
テレビはむら映像広報の制作・放映	事業経費の精査
市役所連絡所の運営	証明書発行や税の納付などコンビニエンスストアでの取扱事務の拡大により連絡所を廃止
フッ素イオン導入の実施	令和3年度から歯科医療機関での個人接種に変更
成人歯科健診の実施	事業委託料の見直し
「青い鳥」の運営	民間事業者の増加などにより廃止
企業活動支援員による企業・事業所への支援	経費の見直し
社会教育関係団体補助金	交付基準などの見直し
部活動外部指導員の配置	補助金の獲得(地域学校協働活動推進事業費補助金)
スポーツ事業委託料	総合体育大会メダルの廃止など事業経費の見直し

◆行財政改革(効果額1億2,542万円)

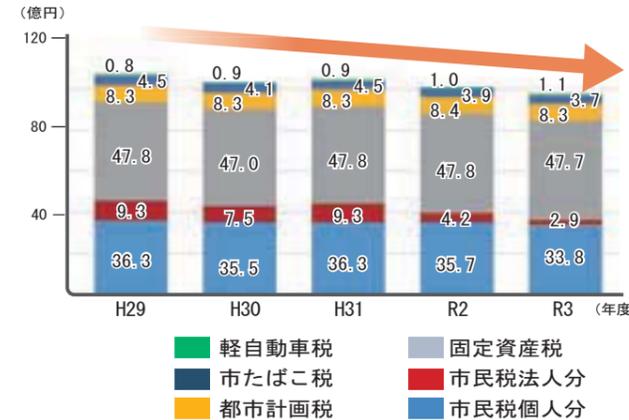
改革項目	具体的な取組み
税収の確保	収納率の向上
事務経費の見直し	予算編成に枠配分方式を導入し、一定割合での削減を実施

行財政改革の取組み

市税などの経常的な収入が減少している一方で、少子高齢化社会の進展に伴い、社会福祉や児童福祉にかかる「扶助費」が増加していることなどにより、基金の取り崩しが増え、基金残高が大幅に減少するなど、財政運営は厳しい局面にあります。【グラフ1・5】

このため、平成30年度から「第六次行財政改革基本計画」に基づき「行政のスリム化に向けた全事務事業の点検・見直し」に取り組んでいます。令和3年度は、このような行財政改革の取組みを予算に反映させ、新たに「枠配分方式」を導入することにより、効果的、効率的な財源配分を行いながら歳出の総額を抑える予算編成を行いました。

【グラフ1】市税収入予算額の推移



新たな手法 「※枠配分方式」とは

財源の一部を各部署に配分し、その範囲内で各部署が優先順位を判断し予算を編成する方法。限られた財源のより効率的・重点的な活用が見込まれます。

令和3年度の主な事業

羽村市の将来像「ひとが輝き みんなでつくる 安心と活力のまち はむら」を実現するための施策を掲げた「第五次羽村市長期総合計画後期基本計画」。その4つの基本目標に沿って、令和3年度に重点的に取り組む事業を紹介します。

基本目標1 生涯を通じて学び育つまち【子ども・生涯学習の分野】

子育て支援と保育・幼児教育の充実

- ◆多様なニーズに対応した保育事業の実施 (3,984万円)

- ◆妊娠・出産・子育て包括支援拠点（子育て世代包括支援センター）の運営 (1,380万円)

学校教育の充実と次代を担う子ども・若者の育成

- ◆インクルーシブ教育システムの構築 (2,526万円)

- ◆学校教育環境の整備 (8,324万円)

生涯学習の推進

- ◆第二次生涯学習基本計画の策定 (238万円) など

基本目標2 安心して暮らせる支えあいのまち【福祉・健康の分野】

助けあい支えあう福祉社会の実現

- ◆生活困窮者自立相談支援事業の充実 (1,262万円)

安心を支える健康づくりと保健・医療の充実

- ◆がん検診の拡充 (4,301万円) など

基本目標3 ふれあいと活力のあふれるまち【市民生活・産業の分野】

ともにつくる住みよい地域社会の実現

- ◆災害時の情報伝達手段の強化 (1億4,707万円)

- ◆災害時マンホールトイレの整備 (770万円) 【公営企業会計】 など

地域とともに歩む魅力ある産業の育成

- ◆技術力の向上支援・後継者育成支援 (513万円) など

基本目標4 ひとと環境にやさしい安全で快適なまち【環境・都市整備の分野】

未来につなぐ環境都市の実現

- ◆一般廃棄物処理基本計画の策定 (85万円)

自然と調和した安全で快適な都市の形成

- ◆羽村駅西口土地区画整理事業の推進 (15億6,400万円) 【特別会計】

- ◆水道管路の耐震化 (2億1,537万円) 【公営企業会計】

- ◆羽村駅西口土地区画整理事業地区の配水管網の整備 (6,329万円) 【公営企業会計】

- ◆水道施設遠方監視制御システムの更新 (2億6,999万円) 【公営企業会計】

- ◆汚水管などの長寿命化事業 (8,366万円) 【公営企業会計】

- ◆雨水管の整備 (2,909万円) 【公営企業会計】

- ◆羽村駅西口土地区画整理事業地区の公共下水道の整備 (5,431万円) 【公営企業会計】

基本構想を推進するために

- ◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の気運醸成・市民意識の高揚を図る取り組みの推進 (2,023万円)

- ◆「羽村市史」の編さん (2,734万円)

- ◆公共施設の総合的な管理 (1億2,206万円)

- ◆社会保障・税番号制度の推進 (6,149万円)

- ◆行財政改革の推進 (300万円)

- ◆旧自然休暇村解体事業 (3億1,939万円) など

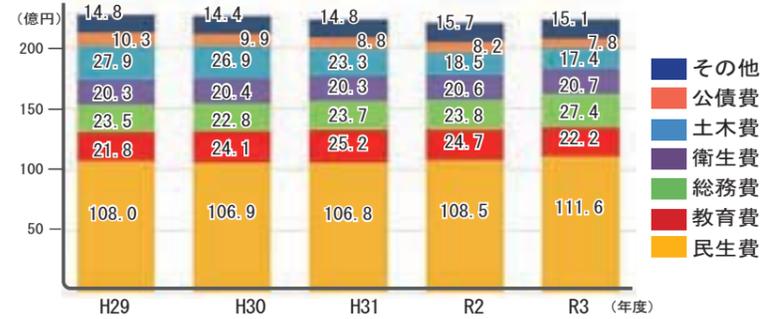
羽村市自然休暇村は、開設から32年が経過し、施設の老朽化に伴う大規模改修の時期を迎え、運営に多額の費用が必要となることから、現在の財政状況を踏まえ、令和3年3月末をもって閉館しました。



え、運営に多額の費用が必要となることから、現在の財政状況を踏まえ、令和3年3月末をもって閉館しました。



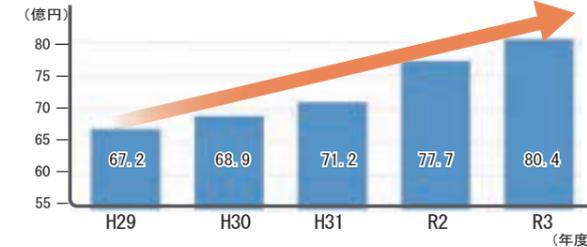
【グラフ4】歳出予算額の推移



【表2】財源補完の状況 (単位：万円)

	令和3年度(当初)	令和2年度(当初)	増減額	増減率(%)
財政調整基金(繰入額)	67,654	41,261	26,393	64.0
市債(借入額)	93,550	55,510	38,040	68.5

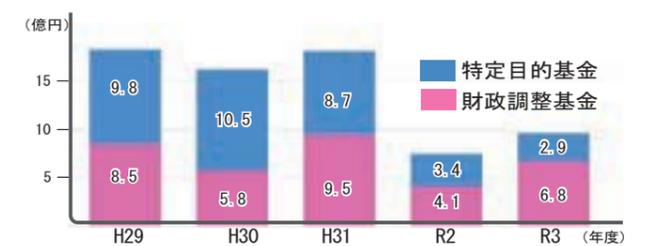
【グラフ5】扶助費予算額の推移



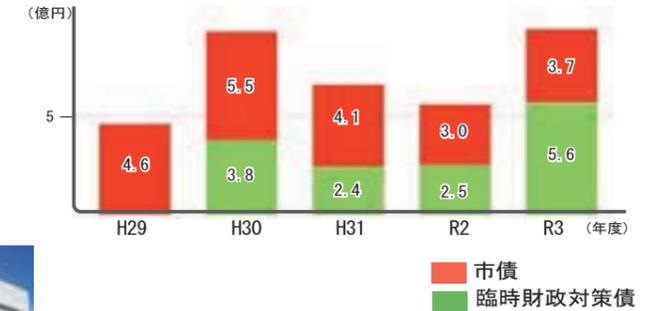
市税収入の減少【グラフ1】をはじめとする経常的に歳入される一般財源が減少していることに伴い、基金からの繰入額が増えており、基金残高が大幅に減少しています。このため、令和3年度も引き続き「第六次行財政改革基本計画」に基づく行財政改革に取り組み、基金残高の確保を図っていきます。

「市債」は、家庭でいう「ローン」にあたりませんが、公共施設の建設などに必要な財源を補う借入金で、将来その施設などを利用する後世代の方にも建設経費を負担していただき、住民負担の世代間の公平を図るという目的で利用しています。令和3年度は9億3,550万円の借入れを行うこととしました。【表2・グラフ7】

【グラフ6】基金繰入額(当初予算)の推移



【グラフ7】市債借入額(当初予算)の推移



◀空調設備の改修が予定されている五ノ神会館



特に記載がない場合は、土・日曜日、祝日、年末年始を除く午前8時30分〜午後5時です。申込みの記載がない場合は直接会場へ。費用の記載がない場合は無料です。